



事業報告書 2018

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」

南近畿から広がる
新しい未来への扉

連携機関



大阪市立大学



大阪教育大学

国立大学法人



和歌山大学



積水ハウス

事業実施責任者 ごあいさつ

大阪市立大学（代表機関）、大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社は、平成 29 年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択されました。本事業の実施に当たり、代表機関である大阪市立大学と、共同実施機関である大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社は、「連携機関長会議」及び「連携機関連絡会議」を発足し、連携して、ダイバーシティ研究環境整備、女性研究者の研究力向上・リーダー育成、女性研究者の上位職登用促進に取り組んでまいりました。また、同時に女性研究者の活躍促進、国際的なリーダー育成を図る「南近畿圏共同研究プラットフォーム」の構築を進めています。

事業 2 年目に当たる平成 30 年度は、女性研究者の共同研究を促進するための助成を行う「連携型共同研究助成」は 23 件に上り、積水ハウス株式会社との共同研究プロジェクト「産官学連携ウイメンズユニット」では、大規模アンケートを実施し、大きな成果を上げました。また、4 連携機関が共同で「介護相談窓口」の新規開設や、「女性研究者メンタープログラム」の導入も行いました。外部資金獲得セミナーや保育センター養成研修講演会などは、TV 会議システムを活用し、複数の連携機関で同時に開催しました。また、国際的なネットワークの進展により、海外の先進的な女性研究者支援事例から多くを学ぶことができ、女性研究者の国際的な共同研究が促進されました。本事業の国際アドバイザー、エイミー・ウェント教授が所属するウィスコンシン大学マディソン校をはじめ、今後も海外有力大学との連携を進めていく所存です。

令和元年度は事業期間 3 年目となります。南近畿圏に拠点を持つ多様な機関が連携して取り組む本事業が、周辺機関にプラスの波及効果をもたらしつつ、発展拡大していくことができますよう、今後とも皆様の一層のご支援とご協力を賜りたく存じますのでよろしくお願い申し上げます。

令和元年 8 月
大阪市立大学
女性研究者支援室長・学長補佐

宮野 道雄

目 次

事業実施責任者 ごあいさつ 1

I 事業概要 3

II ダイバーシティ研究環境整備 5

連携機関長会議と連携機関連絡会議
ダイバーシティ保育センター
研究支援員制度
保育サポート事業
介護相談窓口の開設
総合相談窓口
女性研究者ネットワークシステム（研究支援員人材データベース、SNS 機能）の利用拡大
広報・啓発活動

III 女性研究者の研究力向上・リーダー育成 9

連携型共同研究助成
「産官学連携ウイメンズユニット」による共同研究プロジェクト
研究発表交流会
キャリア形成・研究力向上セミナー
女性研究者メンタリング交流会
女性研究者メンタープログラム
女性研究者外国語論文校閲・翻訳費助成事業
企業インターンシップ
研究施設の共同利用

IV 女性研究者の上位職登用促進 15

平成 30 年度ダイバーシティ研究環境実現シンポジウム
女性管理職育成のためのキャリア研修／管理職研修
南近畿プロモーションメンタープログラム
クロスマッチング制度

V 各連携機関のその他の取り組み 19

大阪市立大学
大阪教育大学
和歌山大学
積水ハウス株式会社

VI 主な取り組み一覧 24

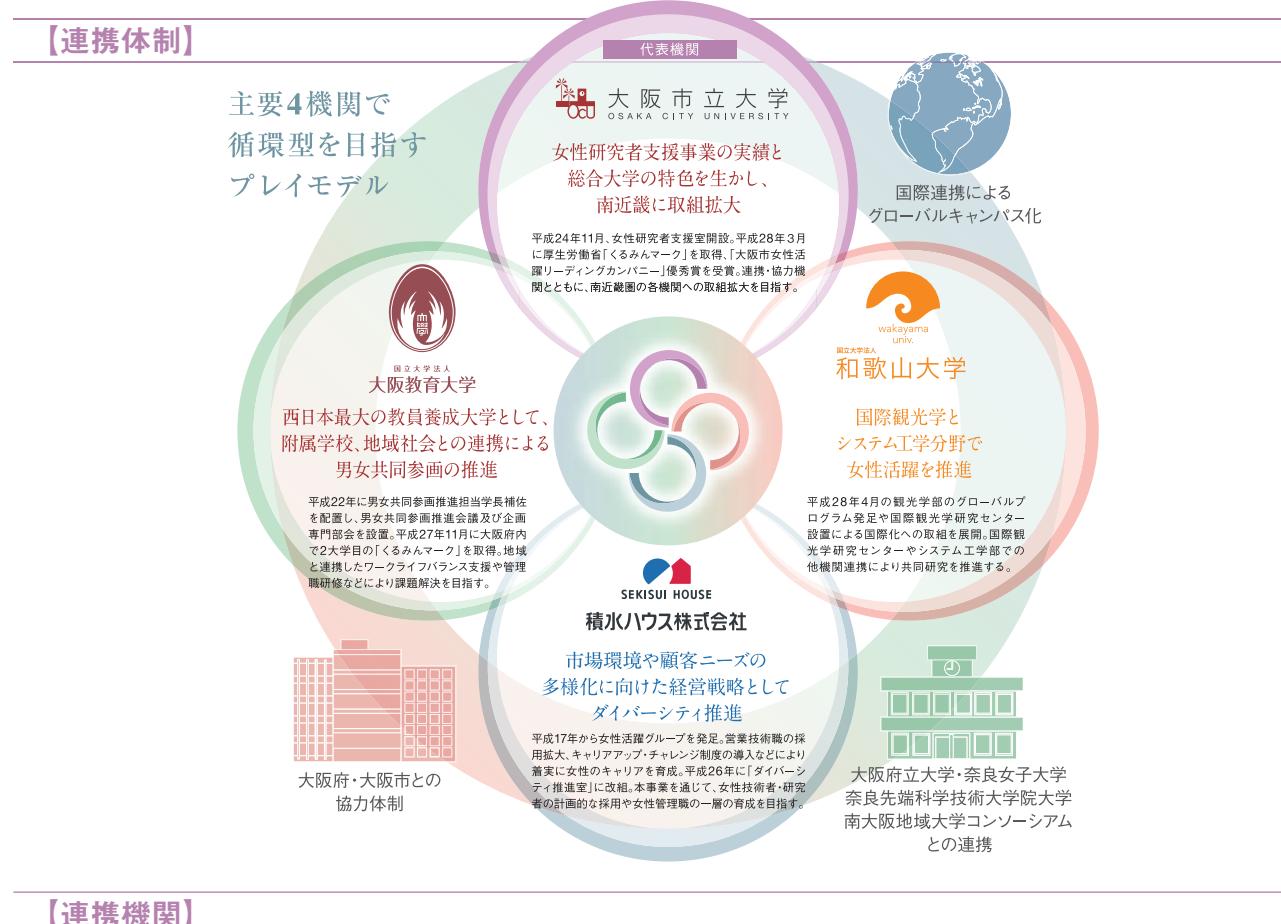
I 事業概要

本事業は、研究環境のダイバーシティを高め優れた研究成果の創出につなげるため、女性研究者のライフイベントやワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取り組み、女性研究者の積極採用や上位職への積極登用の取り組みを支援するものです。「牽引型」は、大学や研究機関が企業等と連携し、地域や分野における女性研究者の活躍促進を牽引する取組支援を目的としています。事業期間は、平成 29～34 年度の 6 年間です。

代表機関の大阪市立大学は、都市型総合大学としての総合力と特色（生活科学研究科の存在など）を生かし、产学官連携による女性研究者のキャリア形成と人材交流を促進するとともに、国際的有力大学との連携を通じてグローバルキャンパス化を図り、女性研究者の活躍促進、国際的なリーダー育成を図る「南近畿圏共同研究プラットフォーム」構築を目指します。

また、共同実施機関である積水ハウス株式会社は、市民に開放されたオープンイノベーション研究拠点も活用して、产学官連携による「新しい住文化」に関する創造的な提案を行います。

さらに、大阪教育大学や和歌山大学との事業の共同実施を通じて、今後、本事業は南近畿の企業や研究機関へと連携を拡大していく予定です。



【3つの取り組み】

1. ダイバーシティ 研究環境整備

- 研究支援員制度
- ダイバーシティ保育センター
- 介護相談窓口の開設
- 保育サポート事業（保育利用料補助事業）

2. 女性研究者の研究力向上・リーダー育成

- 「产学研官連携ウイメンズユニット」による共同研究プロジェクト
- 連携型共同研究助成事業
- キャリア形成・研究力向上セミナーの実施
- 女性研究者メンタープログラムの実施
- 国際アドバイザーの招へい・国際シンポジウムの開催

3. 女性研究者の上位職登用促進

- 女性管理職育成のためのキャリア研修・管理職研修の実施
- プロモーションメンター制度の実施
- クロスアポイントメント制度
- 管理職の人事交流の実施



文部科学省科学技術人材育成補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

専用ホームページ：<https://diversity-oows.jp/>

II ダイバーシティ研究環境整備

【連携機関長会議と連携機関連絡会議】

本事業を連携機関が協働して実施するために、昨年度に引き続き「連携機関長会議」及び「連携機関連絡会議」を実施しました。「連携機関長会議」では、連携機関の機関長が事業の進捗状況を共有し、数値目標達成や事業の課題について協議しました。「連携機関連絡会議」では、本事業の実施責任者等が具体的な事業計画の立案や進捗管理を行いました。

【ダイバーシティ保育センター】

大阪教育大学において、大学のキャンパス等、機関内で一時保育（学童保育等）を行う場合の支援者「保育センター」を養成するため、学生や地域住民等を対象に「保育センター養成研修講演会」を実施しました。参加した大阪教育大学・大阪市立大学の学生・教職員計33名（大阪教育大学27名、大阪市立大学6名）が「保育センター」登録を行い、登録した「保育センター」は、女性研究者の子育て支援策として実施した学童保育プログラム「キッズサマーキャンパス2018」（大阪教育大学で開催）の運営に参画しました。

ダイバーシティ保育センター養成研修講演会

■「大学におけるLGBTs学生支援の在り方について～国内初の学生支援部署『早稲田大学GSセンター』での取り組みを通して～」

【平成30年6月25日（月）】会場：大阪教育大学 参加：106名

講師：大賀 一樹（早稲田大学 スチューデントダイバーシティセンター GSセンター専門職員）

学生や連携機関の職員等、総勢106名が参加し、LGBTsの基礎知識、現状、諸課題を共有し、講師が在籍する早稲田大学GSセンターの成り立ちや活動実績を通して、学校における支援の重要性を学びました。参加者からは、既成概念にとらわれない性別の捉え方やセクシャルマイノリティ支援の在り方について理解を深める良い機会を得たとの声が寄せられました。



■「学校をプラットホームにした子どもの貧困対策 現状と課題」

【平成31年2月20日（水）】会場：大阪教育大学 参加：21名

講師：小河 光治（公益財団法人あすのば 代表理事）

実際に貧困の中にいる子どもたちや保護者が孤立し、助けを求められない感じていることが、支援の困難さを増していることを、実体験も交えて語されました。また、公益財団法人あすのばで行っている様々な効果的な施策が紹介され、参加者からは、教育と福祉の連携の必要性がよく理解できたとの感想が寄せられました。



■「SOGI（性的指向・性別自認）の多様性と大学～何をどのように取り組むべきか～」

【平成31年2月28日（木）】会場：大阪教育大学 参加：51名

講師：東 優子（大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科 教授）

榎井 克明（大阪府立大学 学生センター学生課長）

東氏は、SOGIについて、日本のマスコミでの取り上げられ方など身近なことから、海外での動向まで幅広く語られ、共生を目指すためには包摂されているかどうかが重要であることを学びました。榎井氏は、大阪府立大学での先進的な取り組みが始まった契機から、施策の具体化には学生の協力を得ながら進めていったこと等についてご教示くださいました。



■「一人ひとりが生きる保育をめざして あーよかったな 先生になって～優しさという温かい貯金～」

【平成31年3月4日（月）】会場：大阪教育大学 ※大阪市立大学とTV会議システムにて中継 参加：24名

講師：仲島 正教（教育センター）

小学校教師を21年間勤め、教育委員会で人権教育に携わった経験を踏まえて非常に具体的な内容が披露され、講師の温かなお人柄があふれる楽しい講演会となりました。参加者からは、「子どもたちの良いところ、素敵なものを見つけてほめたい」、「人を育てる管理職も聴講したらよいのではないか」などの感想が寄せられました。



学童保育プログラム「キッズサマーキャンパス2018」

【平成30年8月20日（月）・21日（火）】会場：大阪教育大学 参加：1日目31名、2日目25名

連携機関に所属する教職員の年中から小学6年生までの子どもたちを対象とした、短期託児プログラムを実施しました。子どもたちは、大阪教育大学の学生や教員が企画した英語アクティビティのプログラムや、家族等が働く場所を見学し、仕事の大切さを再認識するプログラムを体験しました。



【研究支援員制度】

研究支援員制度は、出産・育児・介護を抱える女性研究者の研究支援のために、研究支援員（学生・院生・卒業生他）を配置する制度です。研究支援員は、研究者の監督・指示のもと、支援業務を行います。研究支援員の登録対象者は、大阪市立大学、大阪府立大学、大阪教育大学、羽衣国際大学、奈良先端科学技術大学院大学に所属する研究者、学域・学部生、大学院生、卒業生、その他の登録希望者です。

登録後、大阪市立大学が研究支援員登録者の希望条件に応じたマッチングを行います。



【研究支援員制度の利用者数】(平成 30 年度)

	研究支援員利用者	研究支援員
大阪市立大学	12名	14名
大阪教育大学	4名	5名
和歌山大学	4名	6名

【総合相談窓口】

大阪市立大学では、女性教員・研究員・大学院生のライフイベント、人間関係やキャリア形成、心身の不調や変化等、様々な悩みに応じて学内外の専門機関を紹介しています。今後一層、自治体、NPO 法人等と連携していくことを検討しています。

相談件数：14 件（平成 30 年度）

【女性研究者ネットワークシステム（研究支援員人材データベース、SNS 機能）の利用拡大】

平成 25 年度より、大阪市立大学では、女性研究者ネットワークシステムを開発・運営し、大阪府立大学、大阪教育大学、羽衣国際大学、奈良先端科学技術大学院大学と共同利用しています。本システムは、研究支援員人材データベースとソーシャル・ネットワーキング・サービスの二つの機能を持ち、利用者同士の交流の促進とコミュニティの構築を目指しています。自宅・スマートフォン・タブレットからもログイン可能となっています。

【保育サポート事業】

大阪市立大学では、研究者の研究活動と家庭生活の両立支援のため、平成 27 年度より独自の保育サポート事業制度（夜間・休日保育、病児・病後児保育、学童保育利用料補助事業）を実施しています。

利用者：7 名 件数：46 件（平成 30 年度）

【介護相談窓口】

■介護相談窓口の開設

連携機関の女性研究者・ポスドク・院生等を対象に、①介護問題解決のための具体的な手立てや専門知識の提供、②学外の地域包括支援セミナーや行政窓口等の紹介・連携、③相談員の育成を目的として、介護相談窓口を開設しました。

相談件数 9 件（大阪市立大学 4 件・積水ハウス株式会社 5 件）

■介護相談窓口開設記念セミナー

「介護で仕事をあきらめないための介護と仕事の両立とは？」

【平成 30 年 12 月 18 日（火）】会場：大阪市立大学 参加：23 名

講師：湯浅 美佐子（大阪市立大学 女性研究者支援室 介護アドバイザー）

平成 30 年 11 月に開設された「介護相談窓口」を記念して「介護相談窓口開設記念セミナー」を行いました。いつ始まるかわからない介護に対して備えるために、介護で仕事をあきらめないための介護と仕事の両立についてお話しいただきました。



【広報・啓発活動】

平成 29 年度に開設した本事業のホームページを引き続き運用し、事業の周知・広報を推進しました。本ホームページでは、連携型共同研究の研究内容や、女性研究者のロールモデル、連携機関で開催されるイベントの紹介などを行っています。また、ニュースレター vol.3、vol.4 や、介護に関する様々な情報をまとめた『介護と仕事を両立させるための介護ハンドブック』の発行などで事業の周知・広報も行いました。



III

女性研究者の研究力向上・リーダー育成

【連携型共同研究助成】

連携機関に所属する女性研究者が研究代表者として、他の共同実施機関に所属する研究者との共同研究に研究費の助成を行いました。実施要領に基づいて連携機関が共同で審査し、下記 23 件の研究課題を採択しました。

平成30年度 連携型共同研究採択一覧

【大阪市立大学】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
西垣 順子 大学教育研究センター 准教授	青年・成人の発達要求と大学教育一学習・研究要求の具体化とその支援のあり方を中心に	白井 利明 大阪教育大学 教育学部 教授 川野 清美 和歌山大学 教育学部 准教授 川地 垣弥子 神戸大学 人間発達環境研究科 准教授
横山 久代 都市健康・スポーツ研究センター 准教授	若年女性の咀嚼力と骨密度との関係に及ぼす体組成の影響と適正体重保持における咀嚼機能の介入効果に関する研究	福村 智恵 大阪市立大学 生活科学研究科 准教授 平井 美幸 大阪教育大学 教育学部 講師 山崎 祐子 大阪市立大学 医学研究科病院 講師
吉田 朋子 複合先端研究機構 教授	銀ナノ粒子・銀ナノシェルの合成とその物性評価	矢嶋 摂子 和歌山大学 システム工学部 教授 門 齊平 和歌山大学 研究・社会連携課技術支援室 助教
山口 悅子 医学研究科 准教授	メディア・コンテンツを活用した効果的な医療安全教育に関する実践的研究	丁子かおる 和歌山大学 教育学部 准教授 掛屋 弘 大阪市立大学 医学研究科 教授 金子 幸弘 大阪市立大学 医学研究科 教授
齋藤 直子 人権問題研究センター 特任准教授	「新たな社会問題空間」としての被差別部落への転入と転出一転入者・転出者へのヒアリング調査から見る人々の意識と諸課題ーー	神村 早織 大阪教育大学 教職教育研究センター 准教授 森 実 大阪教育大学 教職教育研究センター 教授
福村 智恵 生活科学研究科 准教授	都市部中学生の主体的な健康食習慣の習得を目指した地域食教育プログラムの構築	早見 麻美 大阪市立大学 生活科学研究科 講師 柴田 亜樹 大阪教育大学 教育学部特任 准教授 加賀 恵子 大阪教育大学 教育学部特任 准教授
菅原 真弓 文学研究科 教授	明治・大正、昭和初期の波止場文化と伝宣媒体の研究	天野 真大 大阪市立大学 文学研究科 准教授 小池志保子 大阪市立大学 生活科学研究科 准教授 木川 刚志 和歌山大学 観光学部 准教授 村田 隆志 大阪国際大学 国際教育学部 准教授
岩崎 昌子 理学研究科 准教授	素核物理学実験における深層学習の適用研究：データ解析技術開発および教材開発	越桐 国雄 大阪教育大学 教育学部 教授 住浜 伸次 岐阜大学 教育学部 准教授 谷口 七重 大阪大学 核物理研究センター 特任准教授 高エネルギー加速器研究機構 助教
足立奈津子 理学研究科 准教授	鉱物沈殿機構を解説するための新規微生物岩解析法の確立および教育教材としての活用	廣木 義久 大阪教育大学 教育学部 教授
鍋島美奈子 工学研究科 准教授	高床式砂栽培農業施設を活用した都市農業が社会、経済、環境に与える影響の分析 その2 地域コミュニティ形成に果たす役割と課題	佐久間康富 和歌山大学 システム工学部 准教授 内田 佐和 東レ建設 トレファーム事業推進室 次長
杉田 菜穂 経済学研究科 准教授	共働き家庭の時間的貧困に関する調査研究	安達 智子 大阪教育大学 教育学部 准教授
上村 了美 理学研究科 研究員	ストレス環境下における遺伝子発現機構に関する基礎研究～非モデル生物からの挑戦II	古賀 康壽 和歌山大学 教育学部 教授
小関 珠音 都市経営研究科 准教授	工業地域の再生と「豊穣化の経済」一場所の記憶、ツーリズム、コミュニケーション	藤田 和史 和歌山大学 経済学部 准教授 川口 夏希 大阪市立大学 市都文化研究センター 研究員 立見 淳哉 大阪市立大学 経営学研究科 准教授
小島 明子 生活科学研究科 准教授	食品の機能性に関する食育教材の構築～栄養学・食品科学・教育学関連分野の横断的連携～	井奥 加奈 大阪教育大学 教育学部 教授 山本 奈美 和歌山大学 教育学部 教授
植松千代美 理学研究科 准教授	倍数性種や種内倍数性を示す種を含むツバキ属植物の系統関係の解明	岡崎 純子 大阪教育大学 教育学部 准教授
小池志保子 生活科学研究科 准教授	大阪町家をサイトスペシフィックに利活用する町家活用モデル	小伊藤圭希子 大阪市立大学 生活科学研究科 教授 福田 美穂 大阪市立大学 生活科学研究科 教授 磯田 智子 大阪教育大学 教育学部 教授 西川 章江 大阪教育大学 教育学部 准教授
沼田 里衣 都市研究プラザ テニュアトラック特任准教授	コミュニティ音楽活動における图形楽譜に関する研究	上野 智子 和歌山大学 教育学部 准教授 菅 道子 和歌山大学 教育学部 教授 山崎由里子 和歌山大学 教育学部 教授

【大阪教育大学】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
平田久美子 教育学部 教授	エクオールによる更年期女性の脱毛および顔面の毛髪増加の抑制作用についての研究	森村 美奈 大阪市立大学 医学研究科 准教授
岡崎 純子 教育学部 准教授	島嶼における広域分布種ツリガネニンジン類（キキョウ科）の多様性形成過程の解明	名波 哲 大阪市立大学 理学研究科 准教授

【和歌山大学】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
岩野 清美 教育学部 准教授	教員養成大学・学部附属学校の研究成果の提供・還元の在り方にに関する研究－中学校社会科公民の分野「財政教育プログラム」を例に－	峯 明秀 大阪教育大学 教育学部 教授
秋元 郁子 システム工学部 准教授	高周波 ESR 装置を活用した光キャリアダイナミクスの研究	松岡 秀人 大阪市立大学 理学研究科 特任准教授
吉田 道代 観光学部 教授	都市における家族政策に関するジェンダー分析	新ヶ江章友 大阪市立大学 人権問題研究センター・都市経営研究科 准教授 藤塚 吉浩 大阪市立大学 経営学研究科・創造都市研究科 教授

【積水ハウス株式会社】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
河崎由美子 総合住宅研究所 住生活研究室長	多世帯居住に関する研究開発	王 飛雪 大阪市立大学 生活科学研究科 特任助教 小伊藤圭希子 大阪市立大学 生活科学研究科 教授

【「産学官連携ウィメンズユニット」による共同研究プロジェクト】

平成 30 年 1 月より、大阪市立大学生活科学研究科から積水ハウス株式会社総合住宅研究所に女性教員（特任教員 1 名）を派遣し、「産学官連携ウィメンズユニット（WUSO）」（積水ハウス株式会社総合住宅研究所：住生活研究所長 1 名、大阪市立大学：教授 1 名、特任教員 1 名の計 3 名）による共同研究プロジェクトを実施しています。平成 30 年度は、大規模アンケート調査を実施し、毎月の定例ワーキングで、アンケート調査項目・スクリーニング内容の検討・訪問調査結果報告等の共有と分析を行いました。共同研究者からの提案により、女性教員の専門分野外での学会発表が実現し、研究の幅を広げることができました。

【研究発表交流会】

■第 1 回 研究発表交流会 「植物の色と食」

【平成 30 年 10 月 2 日（火）】会場：大阪市立大学 参加：42 名

講師：リナワティ・リマンタラ（Pembangunan Jaya 大学（インドネシア）学長）

女性研究者の国際的な研究力向上や共同研究の促進を目指すための取り組みとして、リマンタラ学長よりインドネシアの伝統的な植物の色と食、機能にまつわる講演をしていただきました。続いて、関連する研究テーマを持つ女性研究者 3 名による研究発表と合わせたミニシンポジウムを開催しました。

リマンタラ学長の講演では、「ジャムウ」と呼ばれる日常的健康食品や植物を用いた伝統的薬効の紹介など、インドネシアの伝統的な植物、食物成分と健康長寿との関係について大変興味深いお話をありました。

また、3 名の女性研究者より、構造、機能、教育という異なる 3 つのアプローチから研究発表を行い、参加者との意見交換も活発に行われました。

1. 藤井 律子（大阪市立大学 複合先端研究機構 准教授）

「アスタキサンチンを蓄積するレタスの光合成機能」

2. 小島 明子（大阪市立大学 生活科学研究科 准教授）

「タイショウウガ（ナンキョウ）の抗認知症効果とその作用メカニズム」

3. 山本 奈美（和歌山大学 教育学部 教授）

「学校教育における食育と食品の機能性」

■女性研究者研究発表交流会 「女性の活躍がこれからの企業を変える、社会を変える」

【平成 30 年 12 月 4 日（火）】会場：新梅田研修センター 参加：30 名

講師：大内 章子（関西学院大学 経営戦略研究科 准教授）

研究発表：王 飛雪（大阪市立大学 生活科学研究科 特任教員・積水ハウス株式会社）

渋谷いつか（大阪市立大学 生活科学部 4 年生）

岡崎 純子（大阪教育大学 教育学部 准教授）

本庄麻美子（和歌山大学 経済学部 助教）

女性研究者が集い、学び、情報交換をする「研究発表交流会」を開催しました。

第 2 回となる今回は、文部科学省職業実践力育成プログラム認定事業である「ハッピーキャリアプログラム」

を企画運営されている大内准教授に「女性の活躍がこれからの企業を変える、社会を変える」と題してご講演いただきました。また研究発表として、王特任助教と渋谷さんより「子育て視点から見た近居の親子世帯のライフスタイル」、岡崎准教授より「昼夜のどちらの訪花昆虫が有効か」、本庄助教より「大卒初期キャリアにおけるアリアリティ・ショックの多様性」について発表していただきました。質疑応答により課題の深掘りがなされ、活発な意見交換が行われました。



【キャリア形成・研究力向上セミナー】

女性研究者活躍のためのキャリア形成・研究力向上のためのセミナーを開催しました。

■国際学会誌への投稿方法に関するセミナー

【平成30年4月4日（水）・10日（火）】会場：和歌山大学 参加：1日目7名、2日目8名
講師：Dr. キャサリン・クーラティモア（グリフィス大学（オーストラリア））

世界の大学でこれまで以上に出版を求めるプレッシャーが高まっている中、質量ともに兼ね備えた出版を行っていくためにはどうすればいいのか、期待されている成果にどのように応えていくのか、倫理性や戦略について考察を深めた後、参加者も交えて議論を交わしました。



■女性と観光の過去と現在－観光のジェンダー格差

【平成30年4月11日（水）】会場：和歌山大学 参加：23名
講師：Dr. キャサリン・クーラティモア（グリフィス大学（オーストラリア））

余暇の旅行市場では女性の観光客が増加しており、研究によれば、女性が1人で、あるいは女性同士での観光が増える傾向にあります。観光客の男女比においては女性の比率が驚異的に伸びているものの、観光地については男女比が残っているという状況に対して、研究者や観光客の立場で、この男女差をどうすれば改善していくかについて検討を行いました。



■女性研究者短期留学報告会

【平成30年5月28日（月）】会場：大阪市立大学 参加：29名
報告者：堀 まどか（大阪市立大学 文学研究科 准教授）

【平成30年3月オックスフォード大学東洋学部に3週間滞在】
小関 珠音（大阪市立大学 都市経営研究科 准教授）
【平成30年3月パドバ大学に約4週間滞在】

コメントーター：竹鼻 圭子（和歌山大学 観光学研究科 教授）
報告者2名は、大阪市立大学女性研究者短期留学助成金により、平成29年度に海外の大学へ短期留学しました。当日は、2名から留学の成果についてご報告いただき、竹鼻教授より和歌山大学観光学部の国際的な研究力向上を目指した取り組みについてご講演いただきました。



■研究力向上のための外部資金獲得セミナー

【平成30年8月27日（月）・9月6日（木）】会場：大阪市立大学 参加：両日合わせて75名 個別添削：18名
講師：中安 豪（ロバスト・ジャパン株式会社 代表取締役）

今回初めて、本補助事業の連携機関である大阪教育大学、和歌山大学にテレビ会議システムで同時配信を行いました。女性研究者の研究力向上を目指すと同時に、個別支援として希望者に申請書添削も行いました。科研費制度改革の実態について説明があり、その後、科研費新様式の攻略法、審査結果の見直し方、申請書を作成するに当たっての重要なポイント等が、ワークを交えて詳しく解説されました。



■グローバル・ユース・アンバサダー・リーダーシップサミット2018

【平成30年9月20日（木）】会場：大阪市立大学 参加：25名
講師：久末 弥生（大阪市立大学 都市経営研究科 教授）

報告者：永井 泉（大阪市立大学 文学研究科 後期博士課程2年）
松渕 智恵（大阪市立大学 生活科学研究科 後期博士課程3年）
ファシリテーター：池上 知子（大阪市立大学 男女共同参画担当
副学長 文学研究科 教授）

「グローバル・ユース・アンバサダー・リーダーシップサミット2018」は、大阪市と姉妹都市提携45周年となる米国シカゴ市で平成30年7月に開催されたもので、シカゴ市および28の姉妹都市出身の14～16歳の女子を対象とした、次世代のグローバルリーダーを育てる集中型リーダーシッププログラムです。久末教授は、現地で大阪市代表の女性研究者のロールモデルとしてプレゼンテーションを行い、学生たちと意見交換を行ってきました。



久末教授は、「リーダーシップサミット」でのプレゼンテーションを英語で再現し、日本語での解説を加え、現地での女子学生達との交流の様子等を報告されました。また、女性後期博士課程生2名の発表もあり、更に、池上教授をファシリテーターとした質疑応答の時間も設けられました。

■女性研究者のリーダーシップについてのエンカレッジセミナー

【平成 30 年 10 月 3 日（水）】会場：大阪市立大学 参加：12 名

講師：リナワティ・リマンタラ（Pembangunan Jaya 大学（インドネシア）学長）

司会：藤井 律子（大阪市立大学 複合先端研究機構 准教授）

リマンタラ学長は、インドネシアの大学において女性の学長は 3.27% にすぎない、と指摘されました。続いてリーダーになるためのスキルや自身の学長になるまでのキャリアパス等についてお話しされ、参加者は熱心に聞き入っていました。女子大学院生からの質問も相次ぎ、参加者の関心の高さがうかがえました。

■研究者交流会

【平成 30 年 10 月 4 日（木）】会場：和歌山大学 参加：11 名

リマンタラ学長を囲んで、和歌山大学 食農総合研究所（大浦由美所長、三谷隆彦教授、荒木良一准教授、山口真範准教授、戴容泰思特任講師）との研究交流会を開催しました。大阪市立大学 藤井律子准教授（複合先端研究機構）、小島明子准教授（生活科学研究科）も参加し、互いの研究内容について活発な意見交換が行われました。

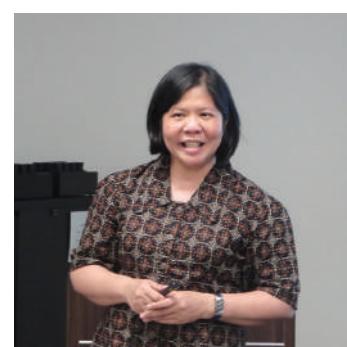


■国際ワークショップ「地域資源と女性：インドネシアにおけるカラフルな植物の生物多様性 “暗黙知” から科学的なアプローチへ」

【平成 30 年 10 月 4 日（木）】会場：和歌山大学 参加：15 名

講師：リナワティ・リマンタラ（Pembangunan Jaya 大学（インドネシア）学長）

インドネシアは極めて多様な生物種を持つ国である例としてまず始めにインドネシア独特の植物や果実、食用花などの紹介から講演が始まりました。現地ではそれらの機能や薬効を生かして土地由来の伝統薬として用いられることも多く、その代表である「ジャムウ」は昔から女性がその製造や販売を担ってきたそうです。また、「バティーク」という染料の着色技術を使った産業においても女性が活躍しており、インドネシアを代表する女性起業家が地域資源を活用して産業を興している事例などが紹介されました。



■観光と SDGs（持続可能な開発目標）に関するセミナー、キャリア形成ワークショップ

【平成 30 年 11 月 27 日（火）・29 日（木）】会場：和歌山大学 参加：両日あわせて 57 名

講師：キャシー・シュー（香港理工大学 ホテル・観光マネジメント学院 教授）

国際観光学研究センター主催で、大学院生と若手研究者を対象としたワークショップが行われました。観光教育・研究の現況をつかみ、今後の方向性を探り、キャリア形成にとって重要な点を議論する他、研究や出版についての実践的なアドバイスも行われました。



■エイミー・ウェント先生の理系学生のためのエンカレッジ教室

【平成 31 年 1 月 18 日（金）】会場：大阪市立大学 参加：31 名

講師：エイミー・ウェント

（wisconsin university madison 工学部 教授、女性科学・技術リーダーシップ機構ディレクター）

エンカレッジ教室では、ウェント教授の講演に先立ち、wisconsin university madison 工学部出身の本條勝彦特任教授（大阪市立大学 理学研究科）に、wisconsin university の素晴らしい学生生活についてご自身の経験談をお話しいただきました。続いてウェント教授に、wisconsin university madison の学びと研究のための設備について、動画を交えながらご紹介いただきました。特に、平成 29 年 9 月に完成した makerspace は、アイデアをすぐに形にできる最新の設備を備えており、ものづくりに関心のある学生にとってとても魅力的な施設でした。

■エイミー・ウェント教授による工学研究科 特別講演会

【平成 31 年 1 月 18 日（金）】会場：大阪市立大学 参加：24 名

「Plasmas for technological applications: optical diagnostics for process control（プラズマの応用技術：そのプロセス制御のための光学的診断）」というタイトルで英語で講演いただきました。

■「英語スキル開発プログラム」

【平成 31 年 2 月 14 日（木）・15 日（金）】会場：和歌山大学 参加：5 名

講師：Gaba マンツーマン英会話講師

プレゼンテーション、ソーシャライズ、ディベートをテーマに、5 名のクラスで 少人数参加型のセミナーを行いました。講義だけでなく、実践演習を織り交ぜ、研究や日々の活動に役立つ英語スキルを習得する機会となりました。プレゼンテーションやディベートでは、積極的な議論が展開され、講師も参加者のスキル習得に留意した対応でした。ソーシャライズは海外の会議や学会で日本人研究者が不得意な場面ですが、今回の研修内容に組み込んでいただき、好評でした。今後もこの取り組みを続けてほしいとの参加者の声が上がっています。



■「英語プレゼンテーションセミナー」

【平成 31 年 3 月 6 日（水）・7 日（木）】会場：大阪教育大学 参加：3 名

講師：カレン・ウエダ（ベルリツ・ジャパン株式会社）

プレゼンの効果的な始め方、構成と展開、印象に残るまとめ方、心をつかむ話し方、質疑応答への対処の仕方など、高度なスキルの演習が行われました。それぞれの単元で説明の後に実践練習を挟むことにより、確実にスキルが身に付き、少人数で密度の濃いセミナーとなったため、参加者の満足度は非常に高いものとなりました。



IV

女性研究者の上位職登用促進

【女性研究者メンタリング交流会】

【平成 31 年 3 月 14 日（木）】会場：大阪市立大学 参加：23 名

講師：池上 知子（大阪市立大学 男女共同参画担当副学長、文学研究科 教授）

説明：西岡 英子（大阪市立大学 女性研究者支援室 プログラムディレクター・特任准教授）

ファシリテーター：小伊藤 亜希子（大阪市立大学 生活科学研究科 教授、女性研究者支援室 女性研究者の上位職登用促進専門部会長）

第 1 部講演では、池上教授から無意識のバイアスについてご説明いただきました。続いて、西岡プログラムディレクターがメンタリングとは何かについて説明し、女性研究者メンタープログラムを紹介しました。

第 2 部交流会では、女性研究者同士で自身のワークライフバランスに関する課題・悩みなどを話し合うというグループメンタリングを体験していただきました。短い時間でしたが、女性研究者という共通項だけで話は大変盛り上がり、とても充実した時間となりました。



【女性研究者メンタープログラム】

「女性研究者メンタープログラム」とは、連携機関に所属する女性研究者（メンティ）が、知識や経験の豊かな指導者・助言者（メンター）から研究生活全般やキャリア形成等に関する支援・助言を受けられる体制をつくり、問題解決のサポートを行うものです。本プログラムは 12 月から開始しており、メンティはキャリア意識の醸成、研究力やリーダーシップの育成、ライフィベントとの両立等の悩みや課題を相談することができます。さまざまな研究分野と多様な人材を有する連携機関が共同してメンタープログラムを実施することによって、メンティとメンターのマッチングを推進し、女性研究者ネットワークの構築につなげます。

【女性研究者外国語論文校閲・翻訳費助成事業】

女性研究者のキャリアアップには外国語論文の作成が必須であることから、女性研究者の国際的な研究力向上のために、外国語論文校閲・翻訳費として、4 万円を上限に大阪市立大学で 6 名を支援しました。和歌山大学でも同事業を導入し、9 月から募集を開始した結果、5 万円を上限に 2 名採択し、支援しました。

【企業インターンシップ】

学生や博士研究員のキャリア形成や多様な進路選択を可能にするため、連携機関（大学）から大学院生 1 名を積水ハウス株式会社へインターンシップ派遣しました。先進的な企業の支援制度や研究環境に触ることで、多様な視座と研究意欲を喚起しました。

【研究施設の共同利用】

平成 28 年度から文部科学省補助事業「共同利用・共同研究拠点」の認定を受けた大阪市立大学人工光合成研究中心等と連携し、連携機関の女性研究者に対して積極的な研究施設（研究室、実験室、研究交流スペース、会議室等）の利用の促進を行っています。

【平成 30 年度ダイバーシティ研究環境実現シンポジウム】

■ 「Women's Career Story ~今こそ伝えたい未来へのメッセージ~」

【平成 30 年 10 月 19 日（金）】会場：大阪市立大学 参加：173 名

講師：久能 祐子（S&R 財団最高経営責任者（CEO）兼理事長）

報告者：本 奈美（大阪商工会議所 人材開発部 研修担当課長）

小谷 美樹（積水ハウス株式会社 CSR 部長）

パネリスト：久能 祐子

呉 海元（和歌山大学 副学長）

内海 美保（近畿経済産業局 通商部 国際化調整企画官）

中谷 明子（ゴールデンダンス株式会社 代表取締役）

ファシリテーター：折原 真子（大阪市立大学 大学運営本部 事務部長）



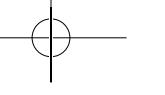
科学者から起業家へと転向しバイオベンチャーの世界で大きな成功を遂げた久能氏より、キャリア形成においてポイントとなる考え方やイノベーションに必要な要素などについて講演されました。

また、上位職登用の観点から大阪における全体的な傾向と個別企業の取り組みについて 2 名からプレゼンテーションを行った後、異なるセクターで意思決定ポジションに就いて活躍する女性にロールモデルとして登壇してもらい、パネルディスカッションを行いました。

基調講演では、久能氏の “My journey” として、科学者を目指していた頃から期せずしてバイオテック起業家となった頃、さらにはワシントンでインキュベーター事業を立ち上げられてから現在に至るまで話をされました。久能氏は、子供の頃は人と話すのが苦手で、人とあまり話さなくても済むと思って研究の道を選んだと言います。世界的にご活躍される今となっては意外に感じられるエピソードですが、その後のキャリアにおいても目の前に訪れる状況に対して自然体で 1 つ 1 つの選択を積み重ねて来られたというお話を印象的でした。日米それぞれで創業したバイオベンチャーが上場するまでに成長し、大きな成功を遂げられましたが、そこに至るまでには大きなリスクと背中合わせでありながらも「不思議と怖くなかった」と話す久能氏。その時の心境を振り返ると「（自分が登るべき）山が見えているような感覚があった」ということで、イノベーションが完成する上で鍵となる要素についても分かりやすく説明していただきました。

最初の報告では、本氏より大阪における女性活躍推進の状況として、女性管理職が 10% 未満の企業は全国平均が 81.1% に対して大阪の企業は 84.3% であること、また女性の継続就労や管理職登用推進の実現にはまだ課題が残っていることについて報告がありました。

次の報告では、小谷氏より、積水ハウス株式会社は意思決定の場に女性を増やし、多様な視点で企業の成長を促すため、2020 年に女性管理職を 200 名輩出することを目標に掲げています。その実現に向けた取り組みとして、約 2 年間のカリキュラムによって実施される「積水ハウス ウィメンズカレッジ」（管理職候補者研修）や、テレワーク等を活用した柔軟な働き方の推進、育児が昇格に不利にならないよう評価制度の構築などが紹介されました。パネルディスカッションでは、「“decision maker” としての生き方～多様なセクターで活躍する女性を迎えて～」をテーマとし、4 つの異なるセクターから意思決定ポジションに就いて活躍される女性をパネラーとして迎え、“decision maker” としての生き方や働き方についてお話をいただきました。ご自身の経験を振り返ってお話をいただくと共に、各セクターの女性活躍状況をデータで見ながら、構造的な課題やそれ



を踏まえたキャリアアップのポイントなどについてそれぞれお話をありました。

参加された方のアンケートでは、「国際的に活躍された方ならではの価値観・マインドの持ち方に感銘を受けた」、「登壇された皆さんが素敵なバックグラウンドを持っているので学ぶことが沢山あった」、「現場で活躍されている女性の経験やポリシーを生の声で聞けて良かった」といった声が寄せられました。

女性管理職育成のためのキャリア研修／管理職研修】

女性研究者自らの上位職登用に関する意識啓発、また管理職を対象とした女性研究者の積極登用や管理職育成を目的とした意識改革を醸成するためのキャリア研修を実施しました。

■ダイバーシティ推進セミナー「『技術開発』から『ダイバーシティ推進・CSR』新しい価値の創造へ向けて」

【平成 30 年 6 月 27 日（水）】会場：大阪教育大学 参加：53 名

講師：小谷 美樹（積水ハウス株式会社 CSR 部長）

本講演は、「平成30年度教職員セミナー」として展開されました。小谷氏は、女性のキャリアアップ促進や家庭と仕事の両立のための働き方改革を中心に、自身の経験を織り交ぜながら説明され、女性管理職登用のための研修「積水ハウス ウィメンズカレッジ」の実施や女性に配慮した現場仮設トイレ「おりひめトイレ」の開発等の紹介を通して、「これから組織が発展していくためには、性差や年齢、障がいの有無等に関わらず、すべての人材が活躍できる環境を整備し、多様な価値観を持つ人たちが協働することで、新たな価値を創造していくことが求められる」と述べられました。

参加者からは、「女性管理職比率の向上に寄与しているウィメンズカレッジ等、先進的な取り組みを知ることができた。本学でもこのような取り組みが必要ではないか」「結婚を念頭に置いた資格取得スケジュールや子どもの成長を考慮したキャリア形成など、キャリアモデルの一例として大変有用な話を聞くことができた」などの感想が寄せられました。



■多様な人事選考を進めるためのワークショップ (Hiring Workshop)

【平成 31 年 1 月 15 日 (火)】 会場：大阪市立大学 参加：24 名

講師：エイミー・ウェント

(ウィスコンシン大学マディソン校工学部教授、女性科学・技術リーダーシップ機構ディレクター)

効果的で効率的な人事選考委員会の運営方法や、優秀性（Excellence）とダイバーシティ（多様性）の視点での候補者の枠を広げるためのリクルート活動、無意識の偏見（Unconscious Bias）をテーマに履歴書や推薦状の評価におけるバイアス、ダイバーシティの視点での人事選考を可能にするための戦略などについてご講演いただきました。

V

各連携機関のその他の取り組み

■ダイバーシティ研修「なぜ、今、ジェンダー平等とダイバーシティが問われているのか？～グローバルジェンダーギャップ110位の現状から考える～」

【平成31年2月22日（金）】会場：和歌山大学 参加：43名

講師：伊藤 公雄（京都産業大学 現代社会学部 教授、大阪大学 名誉教授、京都大学 名誉教授）

伊藤教授は、ポピュラーカルチャーを含む広義の文化現象やメディアの社会学的研究、男性性を中心としたジェンダー研究など、幅広い分野をご専門とされています。男女共同参画や女性の登用などを進めるときに、女性ばかりに注意が向けられることの危険性を指摘され、ジェンダーギャップの大きな日本だからこそ、男性が感じる「剥奪感」（deprivation）に目を向ける必要があると述べられました。



ウィスコンシン大学マディソン校エイミー・ウェント教授 国際アドバイザーに就任

【平成30年6月24日（日）～6月29日（金）】 ウィスコンシン大学マディソン校 WISELI 訪問

ウィスコンシン大学マディソン校 WISELI (Women In Science Engineering Leadership Institute) のディレクター、エイミー・ウェント教授に補助事業に関わる国際アドバイザー就任の正式依頼を行うとともに、就任式を WISELI 関係者全員の出席のもとに執り行いました。

また、WISELI 主催の Hiring Workshop (多様な人事選考を進めるためのワークショップ) に日本の研究機関として初めて、オブザーバーとして参加しました。



【プロモーションメンタープログラム】

大阪市立大学は上位職の女性研究者を育成するために、上位職をメンターとする「プロモーションメンタープログラム」制度を導入し、大阪市立大学が1月から試行的に実施しました。メンティとして選出した女性准教授4人の内諾を得ており、平成31年4月から、メンターである役員相当職や部局長とのメンタリングを開始しています。

【クロスマニアメント制度】

大阪市立大学は、クロスマニアメント制度を平成29年12月に導入し、制度未導入の共同実施機関（大阪教育大学、積水ハウス株式会社）に紹介しました。女性教授2名（大阪大学）がクロスマニアメント制度により、大阪市立大学理学研究科に平成31年2月、4月に着任し、大阪教育大学は制度導入の検討を進めています。

【大阪市立大学】

■女性研究者表彰制度【岡村賞】

平成26年度に創設した女性研究者表彰制度を継続し、優れた研究活動や教育活動および男女共同参画推進に貢献した女性研究者3名を表彰しました。

第5回 大阪市立大学 女性研究者特別賞・奨励賞【岡村賞】受賞者

■特別賞

久末 弥生（都市経営研究科 副研究科長・教授）

■博士研究員奨励賞

浅野 有香（医学部付属病院 乳腺・内分泌外科 後期臨床研究医）

■大学院生奨励賞

小澤 晃代（工学研究科 化学生物系専攻 後期博士課程2年）



■理系女子学生による進路相談会

【平成30年8月4日（土）・5日（日）】 参加：両日あわせて264名

対象を女子中高生、学部生とし、本学のオープンキャンパスと同時開催で企画・実施をしました。

理学部・理学研究科／工学部・工学研究科／生活科学部・生活科学研究科に所属する、現役の女子学部生や女子大学院生が、来場者の受験や学生生活に関する様々な相談に応じました。

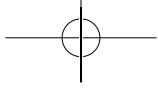


■女子中高生のための関西科学塾

【平成30年10月14日（日）】 参加：59名

この企画は、関西主要6大学（大阪大学、奈良女子大学、京都大学、大阪府立大学、神戸大学、大阪市立大学）が中心となり、女子中学生・高校生を対象に実施しています。本学では3回目の開催となります。

今回は女子高校生を対象に、5つの講座に分かれて実験実習を行いました。親子での参加も多く、参加された方々からは、「大学生活のデモンストレーションみたいだった」、「科学は興味深く、人体には色々な機能があることがわかった。今後もいろいろなことに実際に触れてみて将来に生かしたいと思った」「進路選択や受験に向けて、この経験を生かしたい」といった感想が寄せられました。



【大阪教育大学】

■男女共同参画関連特別講義

大阪教育大学教養基礎科目「キャリアデザイン」「キャリア教育」において、男女共同参画関連の特別講義を行いました。

【平成31年1月22日（火）・25日（金）】 参加：両日あわせて303名

担当教員：井口 徹郎（大阪教育大学キャリア支援センター特任准教授・副センター長）

第14回目の講義として、男女雇用機会均等法の内容とその変遷、女性活躍推進法による女性活躍の加速・拡大、ワークライフバランス等、日本の雇用慣行及び男女共同参画社会をテーマとする講義内容が展開され、学生が自らのキャリアデザインを思い描く際の大切な観点を学ぶ貴重な機会となりました。



■男女共同参画推進助成の実施

男女共同参画に関する教育活動・研究活動及び実践活動に対する助成事業を学内公募し、子どもたちのジェンダー意識と家庭生活観を調査し、小中学校の家庭科の授業開発の際の基礎資料を得る事業に対し助成を行いました。

■多様性や生き方について考える リビング・ライブラリーの開催

【平成30年12月5日（水）】 参加：約40名

多様な人と出会い語り合うイベント「リビング・ライブラリー」を附属図書館本館で開催し、およそ40名の学生・教職員らが参加しました。リビング・ライブラリーとは、人を「本」に見立てて、「本」役のゲストと「読者」である参加者が対話をすることにより、相互理解を深める試みです。10名が「本」として招かれ、それぞれがLGBT・部落問題・子どもの貧困・外国ルーツ・障がいなど、自身のライフヒストリーや今思うことなどを話したあと、「読者」からの質問に答えながら意見交換を行いました。



和歌山大学

■理系女子学生の進学に関する相談会、セミナーの開催

○オープンキャンパス・理系女子（リケジョ）相談コーナー 2018

【平成30年7月15日（日）】 参加：約10組、合計約15名

オープンキャンパスにおいて、「理系女子（リケジョ）相談コーナー」を開設しました。来場者からの授業や研究、学生生活に関する質問や相談に、システム工学部及びシステム工学研究科の在校生が応え、理系を目指す女子学生を応援する場となっています。主な質問内容は、システム工学部における女子学生の割合をはじめ、受験勉強の方法、進路についてなどでした。



○ランチタイムセミナー

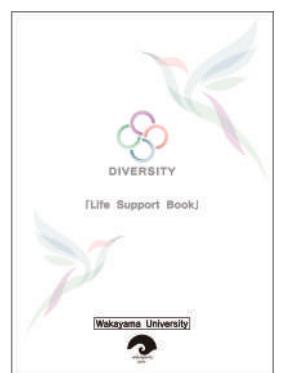
【平成30年10月25日（木）】 参加：約30名

システム工学研究科に在籍している大学院生が、自身の研究内容や、研究活動の面白さなどについて説明するランチタイムセミナーを開催しました。来年メジャー配属をひかえるシステム工学部1年生たちが訪れ、研究内容や、学部メジャー及び大学院クラスタに関することなど、先輩の説明に熱心に耳を傾けていました。



■意識啓発のためのパンフレットの作成・配付

育児・介護休業法の改正に伴い、男女共同参画にかかる内容（育児・介護等の制度）を解説したパンフレット、DIVERSITY『Life Support Book』を作成し、教職員に配付するとともに、同パンフレットをホームページに掲載しました。これにより、育児・介護等制度の利用を促進するとともに、男女共同参画に係る意識啓発を行いました。



■女性研究者研究支援経費

産休・育休・介護休暇明けの研究者への研究費助成のほか、女性教員が論文執筆した際の投稿料・掲載料や、国際学会で発表した際の交通費・宿泊費などの補助（11月26日）を実施しました。

VI 主な取り組み一覧

積水ハウス株式会社

■「仕事と育児の両立いきいきフォーラム」

【平成 30 年 6 月 15 日（金）】

東京メイン会場より全国 102 会場へ Web 会議システムを利用して中継する Web フォーラム形式で開催。約 2,700 名が参加。

「持続可能な協力体制づくり～両立しながらキャリアアップ～」をテーマに積水ハウスとグループ企業の 3 歳以下の子を育児中の社員（男女）、その上司、パートナー（社内外）が参加しました。



■「イクメンフォーラム」

【平成 30 年 10 月 18 日（木）】

東京メイン会場より全国 109 会場へ Web 会議システムを利用して中継する Web フォーラム形式で開催。約 1,900 名が参加。

「男性社員 1 ヶ月以上の育児休業完全取得」を宣言し、2018 年 9 月より特別育児休業（イクメン休業）制度を開始しました。対象者全員が円滑に有意義な休業を取得できるよう、支援策の一つとして「イクメンフォーラム」を開催しました。対象となる男性社員とその直属の上司等が参加。社長から本制度に対する想いを伝え、NPO 法人ファザーリングジャパン代表の安藤哲也氏による講演、育児休業取得経験者の事例発表などを行い、男性が育児休業を取得する意義やその価値について一人ひとりが考える機会となりました。その結果意識改革が進み、取得率は 100% で推移しています。



■女性管理職候補者研修「積水ハウス ウィメンズカレッジ」

【平成 30 年】4 期生、5 期生 参加：38 名

管理職候補の女性を全国から選抜し、2014 年より毎年実施しています。

2 年間のカリキュラムで確実に育成し、計画的かつ適正に実力ある女性の管理職登用を実現します。1 年目は、経営視点を養うスキル学習によりマネジメントの本質を学び、2 年目には、職場の課題を解決する経験学習により現場対応力を強化。目標である「管理職に相応しい経営視点・実力の向上」と「管理職資格昇格への意欲・自覚の醸成」の達成を目指します。

目標である「積水ハウスグループ全体で、女性管理職を 2020 年までに 200 人（5%）登用する」に対して、2018 度は 178 人となり、前倒しで達成見込みです。



月	日	取 素 み
4月	4・10日	国際学会誌への投稿方法に関するセミナー
	11日	女性と観光の過去と現在－観光のジェンダー格差
5月	28日	女性研究者短期留学報告会
	31日	第1回 連携機関連絡会議
6月	25日	ダイバーシティ保育センター養成研修講演会「大学におけるLGBTs学生支援の在り方について～国内初の学生支援部署『早稲田大学GSセンター』での取り組みを通して～」
	27日	ダイバーシティ推進セミナー 「『技術開発』から『ダイバーシティ推進・CSR』新しい価値の創造へ向けて」
7月	31日	第2回 連携機関連絡会議
8月	20・21日	学童保育プログラム「キッズサマーキャンパス2018」
	27日	研究力向上のための外部資金獲得セミナー
9月	6日	研究力向上のための外部資金獲得セミナー
	20日	グローバル・ユース・アンバサダー・リーダーシップサミット2018報告会
10月	2日	第1回 研究発表交流会「植物の色と食」
	3日	女性研究者のリーダーシップについてのエンカレッジセミナー
	4日	リナワティ・リマンタラ先生を囲んでの研究者交流会 「地域資源と女性：インドネシアにおけるカラフルな植物の多様性“暗黙知”から科学的なアプローチへ」
	19日	平成30年度ダイバーシティ研究環境実現シンポジウム 「Women's Career Story～今こそ伝えたい未来へのメッセージ～」
	20日	第1回 連携機関長会議
11月	6日	第3回 連携機関連絡会議
	27・29日	観光とSDGs（持続可能な開発目標）に関するセミナー、キャリア形成ワークショップ
12月	4日	女性研究者研究発表交流会「女性の活躍がこれからの企業を変える、社会を変える」
	18日	介護相談窓口開設記念セミナー「介護で仕事をあきらめないための介護と仕事の両立とは？」
1月	15日	多様な人事選考を進めるためのワークショップ (Hiring Workshop)
	18日	エイミー・ウェント先生の理系学生のためのエンカレッジ教室 エイミー・ウェント教授による工学研究科 特別講演会
	14・15日	英語スキル開発プログラム
2月	15日	第2回 連携機関長会議
	20日	第4回 連携機関連絡会議 「ダイバーシティ保育センター養成研修講演会 「学校をプラットホームにした子どもの貧困対策 現状と課題」」
	22日	ダイバーシティ研修「なぜ、今、ジェンダー平等とダイバーシティが問われているのか？」
	28日	ダイバーシティ保育センター養成研修講演会 「SOGI（性的指向・性別自認）の多様性と大学～何をどのように取り組むべきか～」
	4日	ダイバーシティ保育センター養成研修講演会 「一人ひとりが生きる保育をめざして あーよかったな 先生になって～優しさという温かい貯金～」
	6・7日	英語プレゼンテーションセミナー
3月	14日	女性研究者メンタリング交流会

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」
事業報告書 2018（平成30年度）
南近畿から広がる新しい未来への扉

発行日 2019年8月発行
発 行 大阪市立大学 女性研究者支援室
連絡先 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
Tel:06-6605-3661
E-mail: ocu-support-f@ado.osaka-cu.ac.jp